看護学教育指導者研修（ベーシックコース）の受講報告

（地方独立行政法人京都市立病院機構京都市立病院　看護部3A病棟）
八木　聖香

要　　旨

看護師になるための看護教育制度は，4年生大学・養成機関3年の養成所，短大・高校専攻科5年一貫教育校・准看護師資格取得後養成機関2年の養成所の4つがある．近年4年生大学の設立が増えてきており実習フィールドが過密になってきている．充実した実習とするために，指導者も指導内容をフィードバックして学生とともに育ち学びを深める必要がある．
（京市病紀 2019；39(1)：35-37）

Key words：実習，実習指導者，看護学生，4年生大学

は　じ　め　に

当院は患者に対する医療行為を行うのはもちろんのこと，次世代の医療従事者を育成するための教育も担っている．特に看護師は患者と接する時間が長く，座学では学びきれないことを患者を通した実習で学ぶことが重要である．

看護師育成施設のなかでも特に4年生大学が増えてきており，私たち指導者も4年生大学の在り方や動向を理解する必要があると思い本研修を受講した．本研修は看護学生の実践を直接指導する臨地実習施設と看護系大学が連携・協働することを目的としている．当院の看護師は専門学校や短期大学卒業が多いため研修で学んだことを周知していく必要がある．

研修期間
2018年8月22日～2018年8月24日

1）研修での学び

最初に看護学高等教育行政の動向について文部科学省看護教育専門官のスタッフに講義をしていただいた．実習を受け入れる立場で専門学校よりも大学が増えてきているのは実感していた．全国的に看護系大学数がどんどん増えてきており，年間10校ほど新設されている．27年間で11大学から263大学へ，その分定員数も42.4倍に増えている．一般大学ではこのような伸び率はありえないと言われている．その中でも京都府は9大学あり47都道府県中10位と大学数が多いことがわかった．大学の増加は実習フィールドが過密になるということが実感ではなく数字として示された．

次に看護学教育の基礎，看護学における成人教育のあり方について講義を受けた．大学生は18～22歳とエリクソンの発達理論としても青年期から成人期へ，日本の法律的にも子どもから大人へと移り変わるアンバランスな時期を過ごしている．教育方法も受動的で教え導かれるペタゴジーな教育から自ら学び探究していくアンドラゴジーな教育へと移行していく．看護学は特に複雑で，学内ではペタゴジーな教育を受けていても，実習となるとアンドラゴジーな教育であり知識や経験を糧に自らの考えを導き出すことが重要とされる．看護学実習で求められる教育の一つに「自己決定型学習の支援」がある．時々答えを求めてくる学生がいるが，すぐに答えを返答するのではなく，成人学習へ移行できるよう導く必要がある．しかし実習は体験学習が基本であり圧倒的に経験値が少ないため，いくら考えても答えを出すのは容易ではない．「なぜわからないの？」ではなく，「このページは見た？患者さんのことにつながる重要なことが載っているから見てみて．わかったら教えて」と自ら学び考える力を引き出すことで，学生は自分で答えを導いたと自信をもつことができる．それを看護実践に繋げることができれば経験値となる．そうすることで自己効力感が高まり自身で調べようと学習意欲をもつことができる．学内で学んできた知識・技術を実践しその経験をリフレクションで考えることとで，実践の意味づけ・価値を見出し新たな知性の修得と自身を進化・変革させる．それこそが実習指導者の役割である．

実習は講義の一つ，授業である．私たち指導者は患者に看護を提供しながらその看護場面を学生に指導しなければならない．看護と指導の二重構造となっており複雑化している．この看護場面の構造を把握するためのツールとしてプロセスレコードを使用することを講義で教わった．学生の状況と言動，指導者の考え，指導者の言動をプロセスレコード化することで，流れていく場面を切り取り，自身の指導方法の整理ができ，教材となる場面をフィードバックすることができる．学生の考えや行動に対し困った時こそが指導のチャンスであり，それが指導する際の教材化となる．しかし指導のポイントがブレてしまうと学生を混乱に招いてしまう．学生が感じる学びの場面と指導者が感じる学びの場面が異なることも時に生じる．どの場面を教材化とするのか，指導のポイントはどこか，そこから何を学んでほしいのかというのは指導者の中ではっきりさせておく必要がある．学生にフィードバックを指導するだけでなく，私たち指導者もフィードバックすることが大切である．

2）実習だけで終わらせないために

学生は当院での実習が終了すればすべて終了というわけではなく，年間を通して実習をしている．これからも

実習が続くのである．今までどのような領域実習をしてきたのか，それが今回の領域で活かせることはあるのかを考えることができると経験に繋げることができる．実習を通して初めて壁にぶつかる学生も多い．学内では見えてこなかった新たな課題や，今までの領域実習ででてきた課題というのは学生の間だけではなく，看護師になってからも自己の課題となってくる．学生自身が考える看護師像とも照らし合わせながら課題を明らかにできるよう支援する必要がある．しかし領域別実習での実習は2週間ほどで，学内日を除けば実質8日程度の関わりしかない．限られた期間の中で学生一人一人の特徴やレディネスを理解することは容易ではない．そのため教員と連携が不可欠となり，教員とともに次の実習へと繋げられるよう協力することが重要である．

3）新人指導に繋げるために

今年度当院へ就職した新人看護師は平成8年生まれであるため，平成20年度に第4次改正された保健師助産師看護師学校養成所指定規則による看護教育を受けている．看護師歴11年以上たつ看護師とは教育内容が異なっているのである．特にインターネット・スマートフォンの普及によってSNSの活用が活発になったこともあり，10代は他者との繋がり志向が強い傾向にある．また，言語化するよりも絵や映像などで気持ちを伝える感覚伝達志向は10代・20代で他の年代よりも強い傾向にあることがわかっている（平成25年版厚生労働白書）．このことから，報告や記録が苦手であったり，同期と同じような経験をたどらないと疎外感を感じたりすることが予想される．「スタッフに受け入れてもらえてないのではないか」ではなく，「京都市立病院で学びたい」と思うことができれば就職率の向上や離職率の低下に繋がると考える．こういった特徴のある学生が新人看護師として就職してくることを病棟スタッフへも周知していく必要がある．

当院での教育プログラムでは新人看護師の独り立ちは3年かかるとされている．指導者一人だけではなく，その間多数のスタッフが関わることになる．スタッフ全員で実習指導から新人指導に繋がる教育を担っていけるようにしていきたい．

お　わ　り　に

実習指導者はスタッフと学生の橋渡しをする役割を担っている．実習生のことを「学生さん」ではなく名前で呼ぶことや，学生が挨拶をする際は学生の方を向くなど初歩的なところから興味を持ってもらえるよう取り組んでいるがスタッフの関心度は低い．不規則勤務であり学生との関わりが少ないことや業務が多忙であることが考えられる．学生と関わった際に指導した内容がどのように活かされたのかがわからないため，学生指導へのやりがいを感じることができないのではないだろうか．また実習指導者が専任でいることにより，学生が考える看護・タイムスケジュールとその日受け持ちしているスタッフとで考える看護・タイムスケジュールにギャップが生じているように感じる時がある．学生は受け持ち患者一人に専念しているため当然時間の流れは異なる．学生・スタッフ間で提供する看護を共有し実践することで，今後新人看護師になった際のリアリティショックの予防にもつながると考えられる．

指導者は指導方法の振り返りだけでなく，実習の進め方や学生・教員・スタッフとの連携の取り方を振り返ることで，次への実習へと繋げていくことが今後の課題である．

Abstract

Report on the Participation in the Leader Training Course for Nursing (Basic Course)

Kiyoka Yagi
Department of Nursing Ward 3A, Kyoto Hospital

The nursing education system for becoming a registered nurse consists of four facilities: The 4-year college, the 3-year training facility, the 5-year nursing junior college-high school integrated education and 2-year training facility for licensed practical nurses. As a result of the increase in 4-year colleges, the training field for practice is becoming crowded. To provide full practical training, the leaders need feedback of the contents of the guidance and study along with their students.

(J Kyoto City Hosp 2019; 39(1):35–37)

Key words: Practical training, Practical training leader, Nursing student, 4-year college